

【大綱 6】

みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり

(教育、生涯学習・文化、スポーツ・レクリエーションなど)

- 6-1 生きる力を育む学校教育を推進する
- 6-2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する
- 6-3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる

6-1 生きる力を育む学校教育を推進する

■めざす姿(5年後の状態)

自ら夢や希望、目標を持って、自立して生きていくための基礎となる確かな学力、健康な心と体が育まれている

本市の未来を担っていく子どもたちが、変化の激しい社会において自らの夢や希望、目標に向かって粘り強く学び、生きる力の基盤を育めるよう、基礎的・基本的な知識・技能や、答えが一つに定まらない問題に自ら答えを見いだしていく思考力・判断力・表現力、さらには、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度など、発達段階に応じた確かな学力の育成を目指します。

また、他者を思いやる心や規範意識、自他の生命尊重、自己肯定感など子どもが健やかに成長するために必要な豊かな心を育むとともに、生涯にわたって健康な生活が送れるよう保健教育や食育の推進、運動習慣の確立など、健やかな体の育成を目指します。

現状

- 変化の激しい社会に対応するには、基礎的・基本的な力を基盤に、さまざまな課題に対し柔軟かつ創造的に対応できる力が求められ、主体的・対話的で深い学びの実践、プログラミング教育や外国語教育の実施など、新たな視点による取組みが必要となります。
- 外国人市民の増加や家庭を取り巻く環境の変化等に伴い、一人ひとりの状況に応じた教育支援の重要性が増しています。
- 情報化社会に適応できる力の育成を図るため、タブレット等を活用した授業を実施するとともに、スマートフォン等の機器および SNS を正しく活用できるよう情報モラル教育の推進に取り組んでいます。
- 自己肯定感を高める生徒指導体制の充実や多様なニーズに対応できる教育相談体制の充実など、豊かな心の育成に努めています。
- 継続的に質の高い指導を行うため、安全・安心で快適な学習環境の整備や教職員の資質向上など、質の高い教育環境づくりを進めています。



ICT を活用した教育の充実を図ります

〔タブレット端末を活用した授業のようす〕



■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
全国および埼玉県学力・学習状況調査において、平均正答率を上回った教科区分数	17教科区分	18教科区分
<p>〔説明〕全国学力・学習状況調査については全国平均正答率を、埼玉県学力・学習状況調査については全県平均正答率を18教科区分すべてで上回ることを目標とする。</p> <p>※教科区分…全国：小6国語算数、中3国語数学の4教科区分 県：小4～6国語算数、中1～3国語数学、中2・3英語の14教科区分</p>		
学校が楽しいと感じている児童生徒の割合	小学校 88.2% 中学校 85.8%	小学校 95% 中学校 90%
<p>〔説明〕児童生徒を対象としたアンケート調査における「学校に行くのは楽しいと思うか」という項目で、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合について、小学校95%、中学校90%を目標とする。</p>		

■関連計画

- 第3期越谷市教育振興基本計画(2021～2025年度)
- 第3次越谷市人権施策推進指針(2021～2030年度)
- 第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画(2020～2024年度)

課題

- 複雑で予測困難な社会であるからこそ、幅広い知識と教養、豊かな情操と道徳心、健やかな体等の育成とともに、主体的な問題発見・解決能力や英語も含めたコミュニケーション能力の育成が重要とされています。
- すべての児童生徒がその意欲や能力に応じた力を発揮するためには、特別支援教育の推進、多様な就学機会や外国人の児童生徒への支援など多様なニーズに対応する必要があります。
- 自立して「生きる力」を身に付けるためには、継続的に質の高い教育環境の整備が必要であり、児童生徒が快適に学習できる環境の整備や指導力豊かな教職員の育成が不可欠です。
- 学校における教育活動が多岐にわたり、教職員への負担増加が指摘されているなか、学校の運営体制を改善し、学校における教職員の働き方改革の推進や、保護者・地域と連携した地域全体で子どもを見守り育てる学校づくりなど学校教育の水準を持続発展させる取組みが必要とされています。



英語教育を推進します

〔ALT(語学指導助手)との英語の授業のようす〕

6-1 生きる力を育む学校教育を推進する

■施策の方向性

611 9年間を見通した越谷教育を推進する

□自立した人間として、主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、新たな価値を創造する子どもの育成を目指し、小中一貫教育を通して、カリキュラム・マネジメントの確立による特色ある教育課程を推進します。

□小中一貫教育のさらなる推進のため、教育環境の整備充実に取り組みます。

【具体的な取組み】

○特色ある教育課程の推進

○小中一貫型小中学校候補の検討・整備

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
授業で学んだことを、生活場面や他の学習に生かしている児童生徒の割合	小学校 86.8% 中学校 82.3%	小学校 90% 中学校 87%
〔説明〕児童生徒を対象としたアンケート調査における教科等横断的な視点である「授業で学んだことを、生活場面や他の学習に生かしているか」という項目で、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合について、小学校 90%、中学校 87%を目標とする。		
小中一貫型小中学校の整備校数	—	累計3校
〔説明〕小中一貫型小中学校の整備について、累計3校を目標とする。		

612 確かな学力を育む

□小中一貫教育を通して、主体的・対話的で深い学びの充実により、ワクワク感のある授業を実践することで、義務教育9年間のなかで確かな学力を育みます。

□プログラミング教育をはじめ ICT を活用した教育の充実を図るとともに、児童生徒のコミュニケーション能力を高めるため、ALT(語学指導助手)を効果的に配置し、英語教育の推進に取り組みます。

【具体的な取組み】

○一人ひとりの学力を伸ばす教育の推進

○新しい時代に求められる資質・能力の育成

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
授業では、「考えてみたい」「やってみよう」と感じ、進んで課題に取り組んでいる児童生徒の割合	小学校 83.0% 中学校 82.8%	小学校 90% 中学校 87%
〔説明〕児童生徒を対象としたアンケート調査における「授業では、『考えてみたい』『やってみよう』と感じ、進んで課題に取り組んだか」という項目で、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合について、小学校 90%、中学校 87%を目標とする。		
教員の ICT 指導力等の実態調査における授業中に ICT を活用して指導する能力	76.4%	90%
〔説明〕教員を対象としたアンケート調査における「児童生徒の ICT 活用を指導する能力」という項目で、「できる」「ややできる」と回答した割合について、90%を目標とする。		

613 豊かな心を育む

- 社会、自然等と接する体験活動や道徳教育を推進し、生きる力の基礎となる豊かな心を育みます。
- いじめを含めた生徒指導上の諸問題については、未然防止、早期発見、早期解消を目指し、教育相談体制の充実を図ります。
- 同和問題(部落差別)をはじめとする人権教育や情報モラル教育を推進し、人権問題を主体的に考え行動する児童生徒を育みます。

【具体的な取組み】

- 豊かな心を育む教育の推進と生徒指導の充実
- 教育相談体制の充実といじめ防止対策の推進
- 学校教育における人権教育の推進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
自分には、よいところがあると感じている児童生徒の割合	小学校 84.4% 中学校 79.3%	小学校 90% 中学校 85%
〔説明〕児童生徒を対象としたアンケート調査における「自分にはよいところがあると思うか」という項目で、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合について、小学校 90%、中学校 85%を目標とする。		
人権教育研修会における教職員の参加率	100%	100%
〔説明〕教職員の指導力向上を目的とした各種研修への参加率について、100%を維持することを目標とする。		

614 健やかな体を育む

- 健康教育の充実を図り、児童生徒の体力向上に努めるとともに、健康管理の大切さを認識し、健康の保持増進に主体的に取り組む児童生徒を育みます。
- 児童生徒の健全な心身を育むため、安全で安心な給食を提供するとともに、栄養教諭等による食に関する指導を充実するなど、食育の推進を図ります。

【具体的な取組み】

- 健康教育の充実
- 学校給食の充実と食育の推進

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
新体力テスト8項目中5項目以上において、個々の目標を達成した児童生徒の割合	49.4%	55%
〔説明〕新体力テストについて、県が掲げる目標値55%を目標とする。		
栄養教諭等による食に関する指導を実施したクラスの割合	98.0%	100%
〔説明〕栄養教諭等による食に関する指導(「給食時間の指導」または、「ティーム・ティーチング(共同授業)」)を実施したクラスの割合について、100%を目標とする。		

615 自立する力を育む

- 子どもたちが生涯にわたって自立して生きていけるよう、進路指導・キャリア教育、環境教育や安全教育を推進し、主体的に社会に参画する力を育成します。
- 特別支援教育の推進や不登校の未然防止対策の推進、日本語を母語としない児童生徒への支援など、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育支援に取り組みます。

【具体的な取組み】

- 主体的に社会の形成に参画する力の育成
- 障がいのある子どもへの支援と指導の充実
- 不登校児童生徒への支援
- 一人ひとりの状況に応じた教育支援

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
特別支援学級設置率	64.4%	90%
〔説明〕市内小中学校の特別支援学級の設置割合について、90%を目標とする。		
不登校発生率	小学校 0.38% 中学校 3.20%	小学校 0.28% 中学校 2.95%
〔説明〕不登校により年間累計30日以上欠席した児童生徒の割合について、小学校 0.28%、中学校 2.95%を目標とする。		

616 質の高い教育環境を整備する

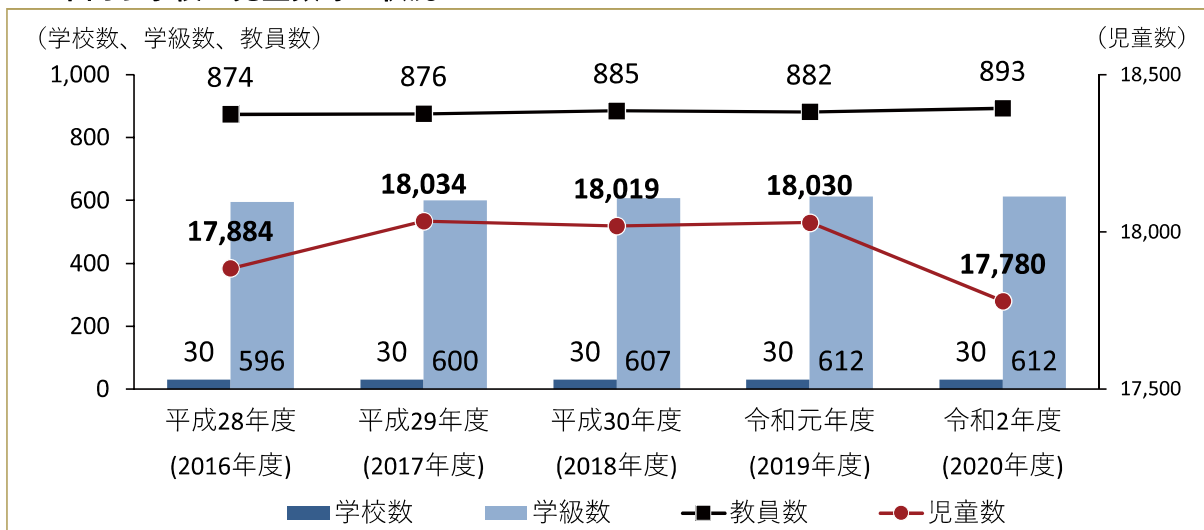
- 教職員の資質や能力の向上を図るため、教職員研修の充実に取り組むとともに、教職員の健康の維持・管理に努めます。
- 教職員の働き方改革の推進や、保護者・地域と連携した地域全体で子どもを見守り育てる学校づくりなどに取り組みます。
- 児童生徒が安全・安心で快適に学校生活が送れるよう計画的に学校施設・設備等の整備・改修に取り組みます。また、学習で使用する ICT 機器等の整備充実を図るとともに、安定したネットワーク環境の整備に取り組みます。

【具体的な取組み】

- 教職員の資質・能力の向上
- 学校の組織運営の改善
- 安全・安心で快適な学習環境の整備・充実

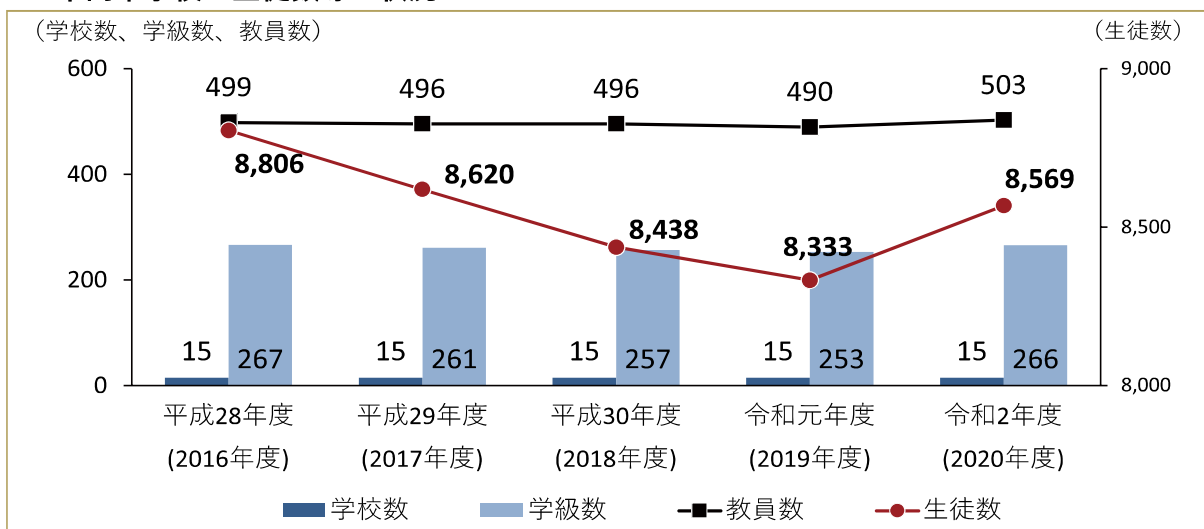
指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
研修受講者アンケートにおいて「大変分かりやすかった」と回答した教職員の割合	85.1%	95%
〔説明〕教職員を対象としたアンケート調査における「研修の内容は分かりやすかったか」という項目で、「大変分かりやすかった」と回答した割合について、95%を目標とする。		

■市内小学校の児童数等の状況



資料：学校基本調査（各年度5月1日現在）を基に作成

■市内中学校の生徒数等の状況



資料：学校基本調査（各年度5月1日現在）を基に作成



教職員の資質や能力の向上を図ります
〔教職員研修のようす〕

6-2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する

■めざす姿(5年後の状態)

あらゆる世代の学びの機会を充実し、だれもが生涯にわたって豊かに生きることができる環境が整備されている

子どもから高齢者まで、それぞれの興味や関心に応じて生涯にわたって学ぶことができるよう、各種学級・講座などの学習機会および図書館サービスの充実、芸術文化活動の推進などに取り組み、いつでも、どこでも、だれもが主体的・継続的に学習活動を行える環境づくりを目指します。

また、学びの成果を発表できる機会を充実し、その成果を地域社会に活かすことができる環境を整えることにより、市民のさらなる学習意欲の向上や地域参加を図り、一人ひとりが学習活動を通して生きがいを感じ、人生をより豊かにできる社会を目指します。

現状

- 人生をより豊かなものとするためには、生涯にわたって自らの能力を高めるとともに、学びの成果を適切に活かし活躍できるようにすることが必要とされています。
- 多様化・高度化する学習ニーズへの的確な対応と生涯にわたって学習できる環境づくりを目指し、公民館や科学技術体験センター等を拠点として一人ひとりが主体的に学べる機会の充実に取り組んでいます。
- 図書館については、より身近で利便性の高いサービスを提供するため、蔵書の充実や図書館システムのさらなる改善を図るとともに、本館、北部・南部・中央図書室や移動図書館による地域に密着したサービスの展開に取り組んでいます。
- 芸術文化については、芸術文化活動の推進を図るため、越谷市民文化祭を開催するなど、成果を発表できる機会の充実に努めています。
- 地域文化や文化財については、地域の歴史や文化を理解するうえで貴重な資源であり、特色ある伝統文化の振興や文化財の保存と活用に取り組んでいます。



各種学級・講座を開催し、学習機会の充実に取り組みます

〔こしがや市民大学のようす〕



■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
市が主催する各種学級・講座の参加者数	年間2万9,968人	年間3万8,000人
〔説明〕市が主催する各種学級・講座の参加者について、年間3万8,000人を目標とする。		
市が主催する芸術文化活動等の出品者数・参加者数	年間4,576人	年間5,000人
〔説明〕文化総合誌「川のあるまちー越谷文化」、越谷市美術展覧会、越谷市民文化祭などにおける出品者および参加者について、年間5,000人を目標とする。		

■関連計画

- 第3期越谷市教育振興基本計画(2021~2025年度)
- 第2次越谷市健康づくり行動計画・食育推進計画「いきいき越谷21」(2014~2023年度)
- 第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画(2020~2024年度)
- 第5次越谷市障がい者計画(2021~2025年度)
- 第3次越谷市人権施策推進指針(2021~2030年度)

課題

- 人生100年時代をより豊かに生きるためには、生涯にわたって自ら学習し、学びの成果を地域社会の課題解決につなげていくことが重要であり、子どもから高齢者まで幅広い世代が継続的に学習できる機会を提供するとともに、学習した成果を地域社会に活かしていく環境づくりが必要とされています。
- 図書館については、蔵書の充実やシステムの改善など図書館機能の充実を図るとともに、子どもが読書に親しむ機会の提供など、市民に親しまれ、役に立つ図書館サービスの充実が必要です。また、北部地域における図書館機能の充実が必要とされています。
- 芸術文化については、市民に心の豊かさをもたらすため、活動機会や芸術文化に接する機会の充実など、自主的に文化活動に参加できる環境づくりが求められています。
- 地域文化や文化財については、地域の歴史や文化の正しい理解のため欠くことができないものであると同時に、将来における文化の向上・発展の基礎をなすものであることから、次世代へ継承するとともに、調査・活用を通じ市民理解を深めることが必要とされています。



芸術文化活動の推進に取り組みます
〔越谷市民文化祭のようす〕

6-2 生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する

■施策の方向性

621 生涯にわたる学びを進める

- 市民が主体的に生涯学習活動に取り組むことができるよう、関係団体と連携した推進体制の充実を図るとともに、ライフステージ・ライフスタイルに応じた各種学級・講座の開催や特色ある科学技術体験事業の実施など、学習活動の充実に努めます。
- 人権教育については、同和問題（部落差別）をはじめとするさまざまな人権問題についての正しい理解と認識を深め、人権意識の高揚を図ります。
- 図書館では、市民の読書ニーズに応じた資料の整備やシステムの改善、電子書籍の導入など利便性の高いサービスを提供するとともに、子どもが読書に親しむ機会の提供など、幅広い市民の読書活動を推進します。また、図書館サービスのより一層の向上を図るため、北部地域における図書館機能の充実について検討します。

【具体的な取組み】

- 生涯学習活動の充実と学習成果の活用
- 社会教育における人権教育の推進
- 図書館サービスの充実

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
生涯学習関係団体と連携した事業数	年間92事業	年間92事業
〔説明〕生涯学習関係団体と連携した事業について、年間92事業を維持することを目標とする。		
蔵書冊数	累計 66万2,000冊	累計70万冊
〔説明〕図書館等の蔵書について、累計70万冊を目標とする。		
科学講座における新規事業の割合	15%	25%
〔説明〕科学講座における新規事業の割合について、25%を目標とする。		



子どもの読書活動を推進します

〔夏の子ども会のように〕

622 文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する

- 越谷市民文化祭の開催や文化総合誌「川のあるまち―越谷文化」の発行などの芸術文化事業を実施するとともに、文化団体の自主的な活動を支援します。
- 能公演や市民能楽養成事業、郷土芸能体験教室の開催など、伝統文化の鑑賞・体験の機会を提供し、特色ある地域文化の振興と普及に努めます。
- 文化財の調査・保存・活用事業に努めながら市史編さん事業を見据えるとともに、事業の拠点となる郷土資料館のあり方についても検討します。

【具体的な取組み】

- 芸術文化活動の推進
- 特色ある伝統文化の振興
- 文化財の保存と活用

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
こしがや能楽堂における主催事業の来場者数	年間2,485人	年間3,000人
〔説明〕こしがや能楽堂にて実施する主催事業の来場者について、年間3,000人を目標とする。		
越谷市民文化祭の参加者数	年間1万2,059人	年間1万5,000人
〔説明〕出演・出品者および来場者について、年間1万5,000人を目標とする。		
文化財活用事業の参加者数	年間6,999人	年間7,300人
〔説明〕文化財を知ってもらうために実施する事業への参加者について、年間7,300人を目標とする。		

特色ある地域文化の振興と普及に努めます

〔こしがや能楽堂における主催事業のようす〕



6-3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに

親しめる環境をつくる

■めざす姿(5年後の状態)

いつでも、どこでも、だれもが生涯にわたり、スポーツ・レクリエーション活動に親しみ、自分らしく、いきいきとした、豊かな生活を送る環境が整備されている

スポーツ・レクリエーション活動を通して市民の生きがいづくり、健康の維持・向上、健康寿命の延伸など、健康で明るく生活が送れるよう、市民の多様なライフスタイルにあわせたスポーツ・レクリエーション活動機会の充実を図り、だれもがさまざまなスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる環境づくりを目指します。

また、幅広い世代が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しむきっかけをつくり、運動習慣を身に付けることができるよう、身近な場所でトップレベルのスポーツが観戦できる機会の充実を図り、スポーツ・レクリエーションに対する興味・関心を高めるとともに、活動を支える団体への支援や指導者の人材育成などスポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の構築を目指します。

現状

- スポーツ・レクリエーション活動を通じて市民の生きがいづくりや健康・体力づくりを支援するためには、いつでも、どこでも、だれもがさまざまなスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりが重要であり、市民が多様なライフスタイルにあわせてスポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう、活動機会に関する情報提供や活動環境の整備に努めるとともに、子どもや高齢者、障がい者が気軽に体を動かすことができるよう活動機会の充実に取り組んでいます。
- スポーツに対する興味や関心を高めるため、プロスポーツの試合や大規模な大会等を誘致し、トップレベルのスポーツ観戦機会の充実に取り組むとともに、スポーツボランティアの養成など、活動を支援する体制づくりに努めています。
- 身近な地域で気軽にスポーツ・レクリエーション活動ができるよう、総合体育館をはじめとした体育施設の整備・充実や、適切な管理に取り組んでいます。



スポーツ観戦機会の充実を図ります

〔プロバスケットボールクラブ「越谷アルファーズ」主催試合のようす〕



■めざす姿に関連する達成指標

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
スポーツ・レクリエーション活動を週1回以上行う成人市民の割合	42.5%	50%
〔説明〕 市政世論調査における「スポーツ・レクリエーション活動の実施状況」という項目で、「週に1回以上」活動を行ったと回答した割合について、50%を目標とする。		
主要体育施設の利用者満足度	96.3%	100%
〔説明〕 総合体育館、越谷市民球場、しらこぼと運動公園競技場の利用者アンケートの総合評価（満足以上の平均割合）について、100%を目標とする。		

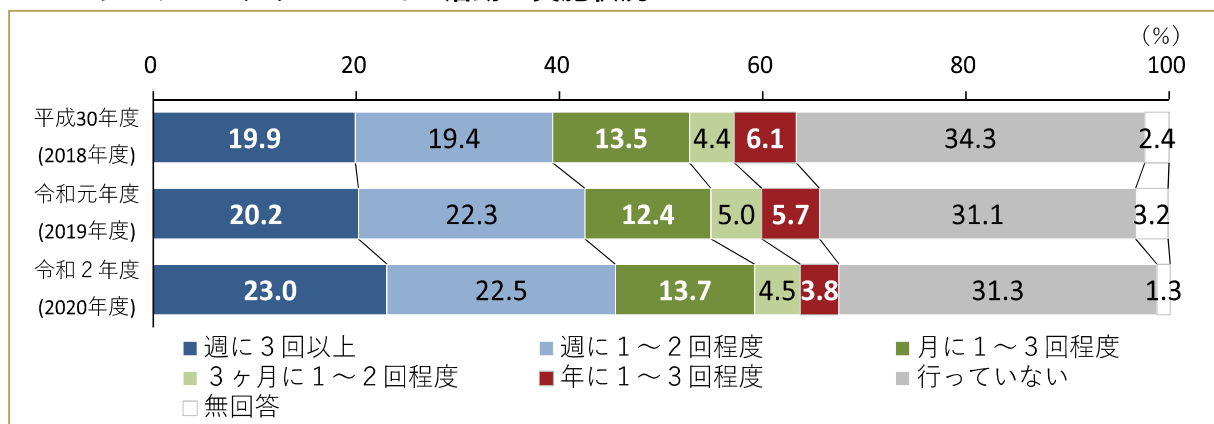
■関連計画

- 第3期越谷市教育振興基本計画(2021~2025年度)
- 第2次越谷市健康づくり行動計画・食育推進計画「いきいき越谷21」(2014~2023年度)
- 第2期越谷市子ども・子育て支援事業計画(2020~2024年度)
- 第5次越谷市障がい者計画(2021~2025年度)

課題

- 社会環境の変化や生活様式の多様化などにより、市民のライフスタイルは変化し、スポーツ・レクリエーション活動に対するニーズも多様化、高度化しています。だれもが身近な場所でスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、楽しみ、参加できる環境をつくとともに、安全・安心に利用できる体育施設の整備と管理運営の充実、健康・体力づくりができるレクリエーション施設の整備が必要とされています。
- 高齢化の進行や子どもの体力低下が懸念され、スポーツ・レクリエーション活動の役割が一層重要となるなか、子どもたちの健全な育成、成人の健康維持、高齢者や障がい者の生きがいづくりなど、一人ひとりにあわせた健康・体力づくりの支援が必要とされています。
- 「するスポーツ」「観るスポーツ」だけでなく「支えるスポーツ」にも目を向け、スポーツボランティアの養成など、スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実が大切です。

■スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



出典：市政世論調査

6-3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに

親しめる環境をつくる

■ 施策の方向性

631 健康ライフスタイルづくりを支援する

□ 市民一人ひとりが年齢や心身の状況にあわせて無理なくスポーツ・レクリエーション活動に参加し、運動習慣を身に付けることは、市民の健康増進や生きがいづくりにつながることから、多様なライフスタイルにあわせたスポーツ・レクリエーション活動環境や活動機会の充実に努めます。

□ 市民のスポーツに対する興味や関心を高めるため、身近な場所でトップレベルのプロスポーツを観戦できるようスポーツ観戦機会の充実に取り組みます。

【具体的な取組み】

○ 活動機会の充実

○ スポーツ観戦機会の充実

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
スポーツ教室の開催回数	年間48回	年間48回以上
〔説明〕各種スポーツ教室の開催について、年間48回以上を目標とする。		
プロスポーツ等の試合開催日数	年間21日	年間21日以上
〔説明〕総合体育館、越谷市民球場、しらこぼと運動公園競技場で開催されるプロスポーツ等の主催試合の開催について、年間21日以上を目標とする。		

632 スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る

□ 市民が生涯にわたりスポーツ・レクリエーション活動に親しめるよう、活動を支える活動団体(組織)の充実や指導者の人材育成、さらには、活動拠点となる施設の充実に努めます。

【具体的な取組み】

○ 組織の充実と指導者の育成

○ スポーツ・レクリエーション施設の充実

指標名	現状値(令和元年度)	目標値(令和7年度)
スポーツリーダーバンク登録者数	累計98人	累計125人
〔説明〕スポーツ・レクリエーション活動の指導者であり、各種スポーツ大会の担い手となる人材の登録者について、累計125人を目標とする。		
体育館の利用者数	年間 46万6,279人	年間50万人
〔説明〕市内における体育館の利用者について、年間50万人を目標とする。		